

農産物主要品目の平成27年産生産実績

【土地利用型作物】

米	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	34,600	34,400	33,900	33,200 (98%)	33,600
10a 収量 (kg/10a)	612	632	597	604 (101%)	623
生産量 (t)	211,800	217,400	202,400	200,500 (99%)	209,328

【27年産解説】

作付面積は、生産数量目標が減少したため、前年をわずかに下回った。
 生産量は、全もみ数が平年並に確保されたものの、登熟が8月中旬以降の低温・日照不足の影響により抑制されたことから作柄はやや不良となり、前年をやや下回った。
 価格は、全国の生産量が目標を下回り需給バランスが改善したことなどから、前年産を上回る価格で推移している。

麦	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,410	2,560	2,650	2,740 (103%)	2,850
10a 収量 (kg/10a)	303	298	337	338 (100%)	410
生産量 (t)	7,310	7,630	8,920	9,250 (104%)	11,700

【27年産解説】

作付面積は、大小麦とも作付が微増し、前年をやや上回った。
 生産量は、越冬後の生育量は確保されたものの、5月の高温・干ばつにより登熟が早まったことから単収は平年をやや下回ったが、作付面積の増加から、前年をやや上回った。
 価格は、大麦は前年とほぼ同額であったが、小麦は国際相場の影響からやや値下がりがした。

大豆	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,370	2,090	2,050	2,120 (103%)	2,500
10a 収量 (kg/10a)	145	163	165	167 (101%)	200
生産量 (t)	3,440	3,410	3,380	3,540 (105%)	5,000

【27年産解説】

作付面積は、前年産が高価格で推移したことなどから前年をやや上回った。
 生産量は、湿害等の発生が少なく、生育が確保されたことなどから、単収は平年をやや上回り、作付面積もやや増加したことなどから、前年をやや上回った。
 価格は、全国的な作付面積増加により生産量が増加したことなどから、前年よりやや値下がりがした。

そば	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,960	3,890	4,060	3,970 (98%)	4,000
10a 収量 (kg/10a)	75	69	63	59 (94%)	90
生産量 (t)	2,220	2,680	2,580	2,340 (91%)	3,600

【27 年産解説】

作付面積は、田・畑ともに作付がわずかに減少し、前年をやや下回った。

生産量は、作付面積の減少及び、8月以降の天候不順の影響から結実不良が発生し、単収が平年より低かったことから前年をかなりの程度下回った。

価格は、近年全国的な作付面積の減少により、国産そばの流通量が減少していること、県産そばが不作であったことから高値で取引された。

【果 樹】

りんご	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	8,180	7,980	7,900	7,870 (100%)	7,810
10a 収量 (kg/10a)	1,771	1,946	2,062	2,060 (100%)	2,074
生産量 (t)	144,900	155,300	162,900	157,200 (97%)	162,000

【27 年産解説】

作付面積は、前年並みであった。

生産量は、新品種等への改植が進み結果樹面積が減少したことから、前年をわずかに下回った。

価格は、主産県との出荷ピークの重複が回避できたことから、県内産りんごの価格が堅調に推移し、前年をわずかに上回った。

ぶどう	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,440	2,430	2,400	2,400 (100%)	2,450
10a 収量 (kg/10a)	980	1,103	1,229	1,240 (101%)	1,094
生産量 (t)	23,900	26,800	29,500	28,300 (96%)	26,800

【27 年産解説】

作付面積は、前年並みであった。

生産量は、新品種等への改植が進み結果樹面積が減少したことから、前年をやや下回った。

価格は、主産地の山梨県等が9月の降雨により病害が発生し生産量が減少したことから、堅調に推移し前年をやや上回った。

なし	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	1,030	948	905	875 (97%)	920
10a収量 (kg/10a)	1,825	1,625	1,981	1,910 (96%)	2,011
生産量 (t)	18,800	15,400	17,930	16,520 (92%)	18,500

【27年産解説】

作付面積は、高齢化による経営中止により前年をやや下回った。
 生産量は、肥大は良好であったが、一部地域で降雹被害及び病害が多発し、前年をかなりの程度下回った。
 価格は、主産県の生産量が減少したことから、堅調に推移し前年をかなり大きく上回った。

もも	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	1,200	1,150	1,130	1,120 (99%)	1,110
10a収量 (kg/10a)	1,400	1,339	1,442	1,510 (105%)	1,604
生産量 (t)	16,800	15,400	16,300	15,900 (98%)	17,800

【27年産解説】

作付面積は、前年並みであった。
 生産量は、早生品種は梅雨の曇天の影響で果実軟化や腐敗によりロスが多くなり、前年をわずかに下回った。
 価格は、西日本の主産地の生産量が減少したことから、堅調に推移し前年を大幅に上回った。

【野菜】

レタス	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	5,790	5,900	5,870	5,940 (101%)	5,910
10a収量 (kg/10a)	2,961	3,400	3,293	3,224 (98%)	3,146
生産量 (t)	171,400	200,600	193,300	191,500 (99%)	187,000

【27年産解説】

作付面積は、昨年の価格堅調の影響から生産意欲は高く、前年をわずかに上回った。
 生産量は、前年並みであった。
 価格は、全国的な品薄傾向の中で前年をかなりの程度上回った。

はくさい	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	2,750	2,750	2,730	2,760 (101%)	2,500
10a収量 (kg/10a)	7,452	8,150	8,147	8,054 (99%)	7,400
生産量 (t)	202,700	224,200	222,400	222,300 (100)	185,000

【27年産解説】

作付面積は、昨年の価格堅調の影響から生産意欲は高かったものの、生産者、県、市町村、出荷団体による産地をあげての夏はくさいの適正生産の取組(期間:7月～8月10日)が継続されたことから、前年をわずかに上回る程度であった。

生産量は、前年並みであった。

価格は、適正生産の取組みにより堅調に推移し、前年をかなりの程度上回った。

キャベツ	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	1,470	1,460	1,500	1,490 (99%)	1,600
10a収量 (kg/10a)	4,033	4,370	4,407	4,276 (97%)	4,500
生産量 (t)	59,300	63,800	66,100	63,700 (96%)	72,000

【27年産解説】

作付面積は、前年並みであった。

生産量は、夏期の高温干ばつと8月下旬の低温日照不足により前年をやや下回った。

価格は、全国的な品薄傾向の中で順調に推移し前年を大幅に上回った。

ブロッコリー	H22 (基準年)	H25実績	H26実績	H27実績 (H27/H26)	H29目標年
作付面積 (ha)	815	825	836	862 (103%)	850
10a収量 (kg/10a)	930	950	934	956 (102%)	953
生産量 (t)	7,050	7,840	7,810	8,240 (106%)	8,100

【27年産解説】

作付面積は、夏はくさい適正生産の取組みによる代替え品目として、また水田地帯への導入により前年をやや上回った。

生産量は、作付面積の拡大により、前年をやや上回った。

価格は、全国的な品薄傾向の中で順調に推移し前年を大幅に上回った。

アスパラガス	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,300	1,060	1,010	971 (96%)	1,400
10a 収量 (kg/10a)	248	264	250	246 (98%)	430
生産量 (t)	3,450	2,800	2,530	2,390 (94%)	5,600

【27年産解説】

作付面積は、県とJA全農長野で推進する「需要に対応できるアスパラガス産地化プロジェクト」により新植を推進したが、高齢化による経営中止や他品目への転換等により前年をやや下回った。

生産量は、春先の干ばつ、8月下旬の低温日照不足の影響でかなりの程度減少した。

価格は、全国的な品薄傾向の中で、前年をやや上回った。

トマト	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	438	410	404	399 (99%)	450
10a 収量 (kg/10a)	4,940	5,290	5,223	5,163 (99%)	6,222
生産量 (t)	22,200	21,700	21,100	20,600 (98%)	28,000

【27年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化等によりジュース用トマトが減少したことから、前年をわずかに下回った。

生産量は、面積が減少したことや8月下旬の低温日照不足の影響で前年をわずかに下回った。

価格は、全国的な品薄傾向の中で前年をかなりの程度上回った。

きゅうり	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	425	405	403	403 (100)	430
10a 収量 (kg/10a)	3,829	3,880	3,747	3,697 (99%)	4,418
生産量 (t)	16,200	15,700	15,100	14,900 (99%)	19,000

【27年産解説】

作付面積は、前年並みであった。

生産量は、8月下旬の低温日照不足の影響で前年をわずかに下回った。

価格は、平成26年に雪害により他県の生産が回復したことなどから、潤沢に市場に出回り、前年わずかに下回った。

【花 き】

キク	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	138	130	122	120 (98%)	111
10a 収量 (本/10a)	26,304	27,615	27,459	27,417 (100%)	27,297
生産量 (千本)	36,300	35,900	33,500	32,900 (98%)	30,300

【27年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化により前年をわずかに下回った。
 生産量は、輪ギクが生産者の高齢化により減少したため、旧盆等物日をターゲットとしたコギクの増産があったものの前年をわずかに下回った。
 価格は、全国的に7月から8月の高温の影響により切花ロスが発生し品薄傾向であったため、前年をわずかに上回った。

カーネーション	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	96	92	83	84 (101%)	88
10a 収量 (本/10a)	64,760	60,000	61,064	61,786 (101%)	68,182
生産量 (千本)	62,300	55,200	50,500	51,900 (103%)	60,000

【27年産解説】

作付面積は、H26.2月の記録的な豪雪から多くの施設が再建して、前年をわずかに上回った。
 生産量は、豪雪からの再建と、秋出荷拡大に向けたプロジェクトの効果もあり前年をわずかに上回った。
 価格は、全国的な品薄傾向と、プロジェクトの増産効果で、前年をわずかに上回った。

リンドウ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	39	37	34	33 (97%)	38
10a 収量 (本/10a)	19,115	15,176	11,763	12,061 (103%)	20,263
生産量 (千本)	7,493	5,600	4,023	3,980 (99%)	7,700

【27年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化に伴う離農等により前年をわずかに下回った。
 生産量は、夏期の高温や凍霜害の影響を受け前年をわずかに下回った。
 価格は、全国的に生産量が潤沢であり前年をわずかに下回った。

トルコギキョウ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	51	51	47	48 (102%)	58
10a 収量 (本/10a)	26, 336	26, 078	26, 652	25, 625 (96%)	25, 345
生産量 (千本)	13, 300	13, 300	12, 500	12, 300 (98%)	14, 700

【27 年産解説】
 作付面積は、H26.2月の記録的な豪雪から多くの施設が再建して、前年をわずかに上回った。
 生産量は、大輪系品種の導入による品質向上を目的とした作付密度の見直しが進み、前年をわずかに下回った。
 価格は、長野県産に対する日持ち性と品種に対する評価が高まり、前年をわずかに上回った。

アルストロメリア	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	25	27	25	24 (96%)	28
10a 収量 (本/10a)	72, 510	75, 000	83, 871	81, 481 (97%)	78, 571
生産量 (千本)	18, 200	20, 100	20, 800	19, 800 (95%)	22, 000

【27 年産解説】
 作付面積及び生産量は、H26.2月の記録的な豪雪から多くの施設が再建したが、一部作付が間に合わず、前年をやや下回った。
 価格は、長野県産の周年体制の構築により評価が高まったことや主産地の品薄傾向により、前年をかなりの程度上回った。

鉢花類	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
作付面積 (ha)	87	87	86	85 (99%)	77
生産量 (千鉢)	21, 010	21, 190	20, 530	20, 870 (102%)	18, 700

【27 年産解説】※シクラメンを中心に解説
 作付面積は、H26.2月の記録的な豪雪から多くの施設が再建したが、建設資材不足の影響で、一部施設が間に合わず前年をわずかに下回った。
 生産量は一時的に夏期の高温の影響を受けたが、管理の徹底により前年をわずかに上回った。
 価格は、全国的な品薄傾向の中で前年をかなりの程度上回った。

【きのこ】

えのきたけ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
生産量 (t)	86,070	83,903	83,470	81,213 (97%)	94,426

【27年産解説】

生産量は、前年度に引き続き夏場の適正生産に取り組んだことから、前年をわずかに下回った。
価格は、夏の需給調整出荷の取組みや野菜の価格高騰の影響もあり、前年をわずかに上回った。

ぶなしめじ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
生産量 (t)	47,868	46,154	47,382	49,864 (105%)	55,746

【27年産解説】

生産量は、前年度の高単価を受け、生産者の増産意欲が高まり、前年をやや上回った。
価格は、企業中心に出荷量が多く、前年をやや下回った。

【畜産】

乳用牛	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
頭数	19,800	18,300	17,600	16,600 (94%)	19,200
生産量 (t)	116,345	108,650	106,587	106,056 (100%)	117,400

【27年産解説】

飼養頭数は、高齢化による品目転換や経営中止による飼養戸数の減少に伴い、前年をやや下回った。
生産量は、頭数減少による影響を受けたものの、1頭当たりの搾乳量が増え、前年並みであった。
乳価は、27年4月に飲用向け・発酵向けともに3円引き上げられた。

肉用牛	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
頭数	29,500	26,400	24,200	23,000 (95%)	28,500
生産量 (t)	7,064	6,354	6,144	5,548 (90%)	6,552

【27年産解説】

飼養頭数は、配合飼料の高止まりや肥育素牛の高騰等により、飼養戸数が減少し、前年をやや下回った。
生産量は、肥育素牛の高騰等により肥育頭数が減少したため前年をかなりの程度下回った。
枝肉価格は、全国的な生産量の減少等を背景に、下位等級を中心に上昇した。

豚	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
頭数	75,000	73,800	74,300	74,000 (100%)	75,900
生産量 (t)	11,518	11,903	11,213	11,158 (100%)	11,530

【27年産解説】

飼養頭数は、前年実績をほぼ維持したため、生産量も前年並みとなった。

枝肉価格は、輸入豚肉価格が高めで推移した年初と夏期は、前年を上回ったが、それ以外の時期は出荷頭数の増加等から前年を下回った。

鶏	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H27 実績 (H27/H26)	H29 目標年
羽数 (千羽)	1,403	1,525	1,441	1,401 (97%)	1,375
生産量	15,700	14,645	14,049	13,641 (97%)	14,017

【27年産解説】

採卵鶏の飼養羽数及び生産量については、飼養農家数の減少等により前年をやや下回ったが、肉用鶏については前年並であった。

鶏卵価格は、前年度に引き続き需要が旺盛なこと等により、高水準で推移した。

鶏肉価格は、前年度に引き続き需要の伸び等により堅調に推移した。